

ドイツ語学科のみなさん

こんにちは。秋もしだいに深まってきましたね。キャンパスでも紅葉・イチョウの黄葉が進んでいます。わが家の柿の実も色づいてきました。秋学期の学習はいかがでしょう？

10月17日（土）の父母懇談会で、必修科目の対面授業の実施について、ご父母からご質問をいただきました。小中高校は対面授業を再開しており、世の中ではGo Toキャンペーンもやっているのに！と思われる気持ちはよく分かります。

まず、現在の状況を確認しますと、土曜日の午前中には選択科目の対面授業が行われています。土曜日の午後には、月～金曜日の授業科目の補講を対面で実施することができます。いずれも、従来よりも教室収容定員を少なくして、消毒や換気等に配慮しておこなっています。このように一部対面授業をとり入れるかたちは、関東の大学としては標準的と言えます。また、図書館やキャリアセンター等は予約のうでで利用可能で、学友会活動もできるところから再開しています。

必修科目の対面授業がいつから行われるかについては、今後のコロナの状況次第ですが、学生のみなさんやご家族の健康・安全を重視し、文部科学省の方針なども踏まえながら、対面授業の再開を目指し、大学で検討を進めているところです。獨協大学では、学期途中の授業形態の変更はいたしませんので、秋学期途中から月～金曜日に対面授業が行われることはありません。現在検討されているのは、2021年度春学期の授業形態についてです。

中学高校は対面授業を再開しているのに、なぜ大学だけできないのかとよくきかれます。中高では1教室あたり40名程度のところ、大学では200人を超えるような講義もあります。キャンパスには8500人ほどの学生が通学しており、県外からの学生さんも多くいます。中学高校とは規模も行動範囲も違うという問題があります。学生のみなさんからも、高齢者や持病のある方と同居しているので、もし対面授業になっても電車に乗っての遠距離通学はできませんといった意見が寄せられており、そういった事情にも配慮する必要があります。対面授業よりオンライン授業の方が分かりやすいという声もあり、オンライン授業のメリットをなるべく活かすかたちで今学期は授業を行っていきたいと考えています。

なお、感染症による経済状況の悪化で大学生の退学・休学が増えているという報道がありましたが、獨協大学ドイツ語学科では、むしろ例年より退学者・休学者は少ない傾向です。学費免除や奨学金等に関しては、学生課で問い合わせ・相談なさってください。

みなさんが元気に学習を続けられますように願っております。



10月29日

木村佐千子